

消滅に瀕するモンゴルの英雄叙事詩「ジャンガル」研究の意義

D・塔亜

叙事詩は世界性を持つ口頭伝承の一ジャンルである。しかし、世界各民族の叙事詩の口頭伝承の事情が互いに異なる。ヨーロッパの叙事詩を含めた多くの地域の叙事詩の口頭伝承が消滅しているのに対して、アジアの一部の地域にはまた活きた口頭伝承の形式で今も存在している。セルビアなど一部の地域の叙事詩の伝承は、庶民の生活圏から離れ、その語りの場が娯楽の場でもあるカフェ屋などへと移っている [1]。しかし、モンゴルの叙事詩を含めた一部の民族の叙事詩は、その民族の民俗文化の一部として現存している。そのため叙事詩の生命史——叙事詩そのものの生活史を研究することは叙事詩研究の重要なテーマのひとつになるのである。

叙事詩の生活史とは、叙事詩の発生、発展、変容、衰退、消滅などの諸問題と関係するものである [2]。現今の叙事詩研究の状況から見ると主に、『ホメロスの問題』に関する研究の影響によって、叙事詩の発生の痕跡を主題として研究する傾向が主流を成しているように見られる [1] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9]。

周知の通り、既に消滅して何世紀も経た叙事詩であろうが、現に活きている叙事詩であろうが、それらの叙事詩の発生、発展の各段階に関する具体的な資料となるものは、あまり残されなかったのである。後の時代に入り、文字で記録されたテキスト、あるいは口頭で伝承されているテキストだけに頼り、それらの叙事詩の発生、発展、変容過程を研究するようになってきたことは、実に想像に過ぎないものであると思われる [2]。

叙事詩の消滅に関する問題に関しては、マルクスの唱えた「ある芸術の形態について、例え叙事詩を例にして言えば、誰でも認めている、即ち、芸術の産出は、芸術の産出として現れる同時にそれらは直ぐに世界史において画期的な古典的な形態で再度生成されなくなる」 [10] という言説を踏襲し、叙事詩は人類の野蛮時代に発生し、文明時代になるときに自然に消滅するものと見做す。殊にエンゲルスは「野蛮時代の上期の最盛期の状況を我々は、ホメロスの叙事詩、殊に「イリアス」から察しすることができる」 [11] と指摘した。また「ホメロスの叙事詩と、すべての神話はギリシア人の野蛮時代から文明時代に持ち越された主要な遺産である」 [11] と指摘した言説を度々挙げている。そのため叙事詩のジャンルは、社会の他の現象と同様、特定の時代（野蛮時代の上期）に発生し、特定の時代（野蛮時代の下期若しくは、文明時代の初期）を迎えた時、自然に消滅するものであると考えている学者もかなりいる [12]。即ち、叙事詩の発生と消滅は、歴史のひとつの範疇であり、人類社会の「自然的発展の原理である」と思われる。

そのため、学者の中には、叙事詩を「ある特定の民族の未熟な時代の作品」、若しくは、「芸術がまた未熟な時代の作品」と見做す方もいるのである。しかし、民族の未熟な時代、若しくは、芸術の未熟な時代において、口承文芸の最高峰である英雄叙事詩は勿論、彼らは自分の意思さえまともに表現することすらままならぬはずである。然るに、マルクスとエンゲルスは叙事詩に関して専門的な研究を行ったわけでもない。彼らは、人間社会の発展段階におけるある問題を論ずる際に、ヨーロッパの叙事詩とその研究資料を利用したに過ぎないだろう。もっと明確に言えば、「マルクスとエンゲルスは、ギリシアの「イリアス」と「オデュッセイア」を野蛮時代の上期、文明時代の初期において作られたと指摘しただけであり、世界中のすべての叙事詩をそのような時代に作られたと言ったわけではないのである」 [13]。大体において世界のどれひとつの叙事詩の発生、変容及び消滅に関する詳細な記述は皆無であり、これを対象にした研究もない場合、あれこれと結論を出すことは不適切なことである。

アジアの多くの地域における叙事詩の伝承は、20世紀の初頭まで繁榮し、ある新しい内容も絶えず追加されていた。例えば、19世紀の初頭にブリヤード人及びアルタイ人の間に、18世紀のオイラトの歴史人物であるシュノをモチーフにした英雄叙事詩『英雄チャノ』 [14] と、『シュルムス・シュニ（魔法の英雄シュニ）』 [15] などの叙事詩は、新たに作られていた。また20世紀の初期ごろ、中央アジアのトルコ系の人たちの間に、レーニンをモチーフにした新しい叙事詩が作られていた [9]。それにも関わらずまだ、『ジャンガル』などのモンゴルに昔から伝承されていた叙事詩にも新しい内容も追加されていた [16]。

そうすれば、トルコ系の人々及び、モンゴル人たちは、20世紀の初期まで『野蛮時代』を過ごし

ていたのだろうか？答えは勿論そうではない。トルコ系の人々及びモンゴル人たちはもっと早い時期にすでに文明時代を歩み、数世紀に渡る文明史を作り上げてきたものである。一方、人類の発展過程において、「野蛮時代」或いは「野生文化」が存在していたかどうかということも、疑問に満ちた問題でもある。

更に、「最初に記録されたモンゴルの叙事詩は、活字にされてからまだ 100 年も過ぎていない。その中に未だに民間に伝承されている叙事詩もあれば、近年になって新たに発見され記録されているものさえあるのである。モンゴル人は、原始時代の叙事詩を我々の研究の為に、無傷の儘に記憶して来られたのではなく、逆に、社会の多くの発展段階を渡ってくる度に、新たなる意識をもって自らの叙事詩を変化させ、更新させてきたのである」〔13〕。

このことは、叙事詩は、古代からの伝承思想であり、また現代の伝承世界でもあることをも暗示するからである。即ちわれわれは、『ジャンガル』などの近代及び現代の事情を見ているに過ぎず、却ってその昔の姿を全体的に見る可能性は皆無である。

モンゴルの英雄叙事詩『ジャンガル』は、活きた口頭伝承の形式で存在している。同時にまた『ジャンガル』は、衰微の時期をも迎えている段階に差し掛かっていると言っても過言ではない。この実情は、叙事詩の衰微と消滅の原理を研究するには、可能性を提示するものと思われる。すなわち、叙事詩は、どのような条件のもとで発生するかという議論を検討する余地はないものの、しかし、叙事詩は、どのような条件、要素のもとで変化し、衰微し、そして最後に消滅に向かうかという問題を検討する際、可能性をもたらすのである。

このように、『ジャンガル』研究から、世界の叙事詩の研究に齎す意義のひとつは、伝統的な社会文化における活きた叙事詩の伝承と継承における原理を研究し、解明することによって、ホメロスの叙事詩のようなすでに消滅されている叙事詩の生活史のデッサンを改めることである。

こうしたことは、却って、現代のグローバルリズムにおいて、活きた口頭伝承を、如何に管理し、保護し、そして、それを後世代に如何に発展させ、広めて行くかという諸問題を検討する際、大いに知見と経験を供するものと思われる〔17〕。そのため、『ジャンガル』の口頭伝承の衰微と消滅を見据えての研究は、『ジャンガル』の発生、発展、変容を検討することと同等な価値を有するものと看做される。こうした知見が今の『ジャンガル』の口頭伝承を保護し、発展させる、理論的な一助になればと期待される。そのため、『ジャンガル』の口頭伝承のデータベースの構築と、『ジャンガル』の伝承の衰微及び消滅の問題に関する研究は、活きた叙事詩と如何に向かい合い、如何に保護し、将来的に発展させ普及させて行くことに理論と実践の意義をもたらす作業である。このような研究態勢をモンゴルの叙事詩だけではなく、モンゴルのすべての口承文芸にも適応させることも可能であろう。

引用文献

- (1) (美) アル伯特・贝茨・洛德，《故事的歌手》北京：中华书局，2004年。
- (2) D.Taya, On the Study of the Inheriting Custom of Mongolian Epics, *Journal of Inner Mongolia University* (Mongolian Edition), No.4, 2013.
- (3) Мелетийский Е.М., *Происхождение героического эпоса*, Наука, 1963г.
- (4) Мелетийский Е.М., *Палеоазиатский мифологический эпос*, Наука, 1979г.
- (5) Чагдуров С.Ш., *Происхождение Гэсэриады*, Наука, 1980г.
- (6) Мелетийский Е.М., *Введение в историческую поэтику эпоса и романа*, Наука, 1986г.
- (7) [俄] Е.М.梅列金斯基，《英雄史詩的起源》北京：商务印书馆，2007年。
- (8) 立石久雄『英雄叙事詩の研究：その生成と性格について』横浜：西田書店、1998年。
- (9) 坂井弘紀『中央アジアの英雄叙事詩：語り伝わる歴史』東京：東洋書店、2002年。
- (10) 《马克思恩格斯选集》(第二卷)，北京：人民出版社，1975年。
- (11) 恩格斯《家庭、私有制和国家的起源》，《马克思恩格斯选集》(第四卷)，北京：人民出版社，1975年。
- (12) 仁钦道尔吉《蒙古英雄史詩发展史》北京：中国社会科学出版社，2013年。
- (13) Buyankeshig, Tegüsbayar, *Mongol Arad-un Aman Zokiyal- un Shinjilel*, Öbör Mongol-un Yeke Surgaguli-un Keblel-un Qoriya, 1990.
- (14) Н.Амагаев, *Чано батур-Героическая поэма иркутских бурят ойратов*, Ленинград, 1940г.

- (15) И.Какпаков,Шулмус Шуны,Алтайский героический эпос Г.Горно-Алтайск,1964г.-с.5-50.
- (16) D.Taya,*Jangarchi-yin sudulal*, Öbör Mongol-un Arad -un Keblel -un Qoriy-a,2015.
- (17) D.Taya,*Kör Qar-a Usun-nu“Jangar”-un Ulamjilal-un Sudulal*, Shinjiyang-un Arad-un Keblel-un Qoriy-a,2013.

(D・たや 内蒙古大学蒙古学学院)

The Reason of Studying the Decline of Oral Tradition of Jangar

D.Taya

[Key Words] Jangar; oral tradition; decline; research

[Abstract] While observing the research history of epics, we would find researchers have paid close attention to the beginning, development and changes of epics, and paid little attention to the decline of epics. In the article, the author argues the study of decline of Jangar has theoretical and practical importance to understand the vanishing history of dead epics, to understand the necessity of cherishing and spreading existing oral tradition.